

## 第2回離島地域観光交流促進委員会議事概要

### 【日 時】

平成19年4月20日（金）16:00～18:20

### 【場 所】

国土交通省（合同庁舎2号館）高等海難審判庁会議室

### 【出席者】

[委員] 安島委員長、加藤委員、熊村委員、五島委員、清水委員、玉沖委員、中岡委員  
[国土交通省] 大西審議官、安原審議官、大野審議官、  
重田観光地域振興課長、福島離島振興課長、大塚内航課長、梅山振興課長

### 【議事概要】

委員 五島列島の概要及び観光交流について、五島列島の受け手側の状況をあげながらこれまでの取り組みを紹介。また、地元では、気がつかず観光資源となりうるものが埋もれていることも紹介。

委員 五島列島の事例から地域住民との交流の輪を広げるに当たり、祭りが重要な役割を果たすツールとなること、更に地域の方との交流から人の輪が広がる旨紹介。それには、地域住民の方から訪問者に対しうまく説明することが大事であり、よい印象から更にリピータになりうる。また、安定した旅行が計画できるよう受け手側の窓口整備が必要である。中・長期滞在者を呼ぶには、都市地域から交通の便のよいところが可能性が高く、更にその周辺地域が観光交流に有望な地域となる。例えば、八重山諸島、宮古諸島、奄美諸島、五島列島等であり、また、香川県の粟島等も検討の余地あり。

委員 佐渡のイベントへの取り組みについて紹介。

これは、地元住民の輪から更に人との交流の輪へと広げるもので地域に根ざしたものであることを紹介。また、リピーターを増やすには、受入側が訪問者に対して安定した旅行計画が立てられるようにすることが大事である。

委員 離島の観光交流は、持続的に行うべき。

離島航路事業者のサービス低下等の悪循環をくい止めるために観光振興という形での交流の拡大が必要で、なかでも、離島の観光の特色に季節波動が極めて大きいことがあるため、閑散期の対策を皆で行う必要がある。

この場合の国の役割は、民間では取り組みにくいところ、やる気はあるがあきらめているところに対してリードしてほしい。民間が、取り組んでいるところ、または、全くやる気のないところは、放っておいてかまわない。

国交省 どのような方向のものを支援していくか議論する必要がある。

これからの議論に当たり、閑散期対策、長期滞在型、また、教育旅行などがテーマに入り、地元の関係者が連携を組めるもの、地元がやる気のあるものに対し何ができるか検討することにより、議論が収れんしていくと思う。

委員 全国的旅行者の目的は、①美味しいもの、②温泉、③宿であるが、離島に限ると、①アウトドア、②マリンスポーツ、③名所旧跡となる。自然が豊かというロケーションには期待されるのにそこでの食事が期待されていないのが不思議である。

これまでに、地域で普通の産物から全国展開した成功例を紹介。

成功に至る過程には、地元の方は周りからアドバイスを受け何をしなければならぬか理解しているものの、実現に向けた行動計画が立てられないでいるので、専門家が衛生管理から製品化へ向けた行動計画を示しアドバイスしている。

小さな成功体験を実現することにより、次への発展につながっていくことが期待できる。

委員 地元の良いものがあったとしても地元の方は、それを活かしていない。

食事を出してやっている、泊めてやっているという意識を変える必要がある。

国交省 公共事業が減り離島は疲弊しきっている状況で最後は観光に望みを託すところ、観光は、漁業、サービス業等の地元の関係者への波及効果が大きい。

委員長 離島により規模の違いや、以前から観光地であるところとこれから観光に取り組むところと色々あるので、より具体的な議論をするためにいくつかのタイプに分けてほしい。